

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

清澄通り－2



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」と歩いてきました。

今回は「清澄（きよすみ）通り」を歩いています。清澄通りは墨田区吾妻橋交差点から中央区勝どき陸橋交差点に至る延長約8kmの道で東京都指定名勝の清澄庭園の脇を通過します。写真上右は清澄通りの道路名標識（都道463号線）です。前は起点から森下駅前交差点まで歩きました。

今回は森下駅前交差点から終点の勝どき陸橋交差点まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部以前に訪問時の写真もあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[森下駅前交差点] 江東区森下一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 森下駅

森下駅前交差点の手前から江東区に入ります。森下駅前交差点で新大橋通り（都道50号線）と交差します。左へ行くと船堀方面、右へ行くと新大橋です。

[高橋（たかばし）夜店通り] 江東区高橋

最寄駅 都営地下鉄新宿線 森下駅

写真下左の交差点を通過の際に、左を見たら高橋夜店通りの表示でした。以前に「田川水泡・のらくろ館」を訪れた時、ここを歩いたことを思い出しました。左へ行くと田川水泡・のらくろ館がある「森下文化センター」です。右へ行くと深川芭蕉通りで万年橋の近くには「芭蕉史跡公園」・「芭蕉庵跡（芭蕉稲荷）」・「芭蕉記念館」があります。ここは俳人 松尾芭蕉ゆかりの地です。
のらくろ館・芭蕉記念館は寅さん歩 342 東京の博物館めぐりー29 江東区ー1
をご覧ください。



[小名木川・高橋] 江東区高橋

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

「小名木川（おなぎがわ）」にかかる「高橋（たかばし）」を渡ります。船乗り場もありました（写真下左右）。小名木川は隅田川と旧中川を結ぶ運河で徳川家康が小名木四郎兵衛に命じて開削し、千葉行徳の塩を江戸に運びました。



[清澄三丁目交差点] 江東区清澄三丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

清澄三丁目交差点（写真下右）で清洲橋通り（都道 474 号線）と交差します。左へ行くと東砂方面、右へ行くと清洲橋・日本橋浜町方面です。



[清澄庭園] 江東区清澄三丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

右側に都指定名勝の「清澄庭園」があります。写真下左で右に入ると正門です。



清澄庭園は一説には江戸の豪商、紀伊国屋文左衛門の屋敷跡と伝えられています。

享保年間(1716～1735年)に、下総国 関宿藩主久世大和守の下屋敷となり庭園のものが形造られました。1878年(明治11年)岩崎彌太郎が邸地を含む一帯を取得し、社員の慰安や貴賓を招待する場所「深川親睦園」としました。

造園工事はその後も進められ、明治を代表する回遊式林泉庭園として完成しました。関東大震災や昭和の大空襲では避難場所として多くの人の命を救いました。関東大震災の被害が比較的少ない東部分が岩崎家から東京市に寄付され、「清澄庭園」として復旧・整備し、1932年(昭和7年)に開園しました。写真下は園内風景で岩崎家が自社の汽船で全国から集めた名石があります。



開園時間 9 時～17 時、休園日は年末年始（12 月 29 日～1 月 1 日）、入園料は一般 150 円、65 歳以上 70 円、小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料。

[深川江戸資料館] 江東区白河一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

「深川江戸資料館」は清澄通りを挟んで清澄庭園の反対側にあります。



左に入る道は深川資料館通り（写真左）で、資料館は江戸六地藏がある「霊巖寺」の先にあります。

寅さん歩 09 江戸六地藏めぐり及び
寅さん歩 342 東京の博物館めぐりー29
江東区ー1 をご覧ください。

[曲亭馬琴誕生の地] 江東区平野一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

左側に「平野」の地名表示が出てきました。地図を見ると四丁目の木場公園までの左一帯の広いエリアでした。江戸時代の名主 平野甚四郎長久の姓が地名の由来とのことですが、平野寅次郎一族との繋がりはありません。仙台堀川手前の左側に「曲亭馬琴誕生の地」の説明板を見つけました。曲亭馬琴(1767～1848)は深川が生んだ江戸後期を代表する戯作者です。旗本松平家の下級武士の五男に生まれ、13 歳で松平家を出て文筆で身を立てようと志しました。本名は滝沢興邦で筆名は曲亭馬琴です。滝沢馬琴の名は明治に入り流布されたとのこと。代表作品に 28 年かけて完結の「南総里見八犬伝」があります。

[仙台堀川・採茶庵跡] 江東区深川一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 門前仲町駅

「仙台堀川」は隅田川と旧中川を結ぶ運河のひとつです。北岸に仙台藩邸の蔵があり米や特産物が運ばれたことが名の由来です。

清澄通りの右側を歩き、仙台堀川に架かる「海辺橋」(写真下左)を渡ると右側に「採茶庵跡」の説明板があります。採茶(さいと)庵の前には旅支度の松尾芭蕉さんが座っていました(写真下右)。



採茶庵は江戸時代中期の俳人 杉山杉風(すぎやま さんぷう)の庵室です。採茶庵は俳号で隠居後は一元と名乗っています。家業は魚問屋で幕府御用も務め、小田原町(現在の中央区)に住み、芭蕉の門人でもありました。芭蕉は奥の細道の旅に出る前、住居にしていた芭蕉庵を手放し、しばらくここに住んで門人たちとの別れを惜しんだのち、舟で隅田川をのぼり、千住大橋のもとから奥州へと旅立って行きました。写真上右の採茶庵の右下が仙台堀川です。仙台堀川沿岸は桜の名所です。寅さん歩 166 東京の桜 2017-1 をご覧ください。

[法乗院 忍んま堂] 江東区深川二丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 門前仲町駅

左側にお寺が多く目立ちます。深川一丁目交差点手前の赤い門が「法乗院」です。境内の左が「忍んま堂」(写真下左)で、中では閻魔大王がにらみを利かせています(写真下右)。



閻魔大王の前に並ぶ 19 個のお賽銭入れ（写真下）にはお願いする項目が書かれています。たとえば「商売繁盛」、「縁結び」などです。お賽銭を入れると音楽や太鼓と共に閻魔大王の声が聞けるハイテク閻魔大王です。



寅次郎、「ガン封じ」にお賽銭を入れました。閻魔大王のお言葉は「精進せよ！」の内容でした。「ぼけ防止」にもお賽銭入れましたが、こちらも具体的な内容は聞きませんでした。でも閻魔大王にお願いは聞いていただけたと前向きにとらえた寅次郎でした。寅さん歩 42 健康ご利益めぐりー6 江東区-1 をご覧ください。

[深川一丁目交差点] 江東区深川一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

深川一丁目交差点（写真下右）で葛西橋通り（都道 475 号線）と交差します。左へ行くと浦安方面、右へ行くと日本橋方面です。



[門前仲町交差点] 江東区門前仲町二丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 門前仲町駅

門前仲町交差点（写真下右）で永代通り（都道 10 号線）と交差します。左へ行くと富岡八幡宮・葛西方面、右へ行くと永代橋・日本橋方面です。

永代橋は寅さん歩 441 永代通りー1、富岡八幡宮は寅さん歩 442 永代通りー2 をご覧ください。



[大横川 黒船橋] 江東区牡丹一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 門前仲町駅

江戸時代の埋め立て地に造られた運河の「大横川」にかかる「黒船橋」の手前に門前仲町の「火の見櫓」(写真下左)があります。黒船橋(写真下右)の名は江東区牡丹にある黒船稲荷神社から命名されたとの説が有力です。



[越中島交差点] 江東区越中島二丁目

最寄駅 JR京葉線 越中島駅

越中島交差点(写真下右)で左へ行くと豊洲方面です。清澄通りは直進します。交差点の左側に「東京海洋大学越中島キャンパス」があります。



[東京海洋大学] 江東区越中島二丁目

最寄駅 JR京葉線 越中島駅

写真下左は東京海洋大学正門です。明治天皇が行幸に使われた重要文化財の「明治丸」(写真下右)が構内に展示されています。詳しくは寅さん歩 211 東京の学食めぐりー17 東京海洋大学越中島キャンパスをご覧ください。



[相生橋]



隅田川にかかる「相生橋」(写真上左)を渡り、中央区に入ります。写真上右は橋の上から眺める月島・晴海方面の光景です。相生橋の名は初め長短の二橋で構成されたため「相生の松」に由来して命名されました。

[月島駅前交差点] 中央区月島二丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 月島駅

月島駅前交差点(写真下右)で都道473号線と交差します。左へ行くと春海橋方面、右へ行くと佃大橋・新大橋通り方面です。



[勝どき駅前交差点] 中央区勝どき一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 勝どき駅

勝どき駅前交差点(写真下右)で晴海通り(都道304号線)と交差します。左へ行くと晴海方面、右へ行くと銀座方面です。



[十返舎 一九墓 東陽院] 江東区勝どき四丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 勝どき駅



終点手前の左側の東陽院門前に「十返舎一九墓」の説明板がありました。

江戸時代後期の戯作者の十返舎一九(1765～1832)は駿河国(現在の静岡県)で生まれ、江戸に出て日本橋の出版業者 蔦屋重三郎のもとで多くの黄表紙・洒落本を書きました。その代表作は「東海道中膝栗毛」です。

没後、現在の元浅草の東陽院に葬られました。関東大震災後、東陽院は当地に移転、墓も移されたとのこと。

[勝どき陸橋交差点] 江東区勝どき六丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 勝どき駅



環二通りと交差する勝関橋陸橋交差点(写真上右)が清澄通りの終点です。多くの史跡があり、改めて学び直すことが多かった清澄通りの歩きでした。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。

全行程約 600 里 (約 2400 k m) の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022 年 4 月 26 日、江戸深川 (現在の江東区深川) を出発、2022 年 12 月 10 日 鶴岡 (現在の山形県鶴岡市) (江戸深川から 1091 k m) に到着しました。

八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈が掲載されています。

芭蕉は 6 月 10 日、羽黒滞在を切り上げて、馬で鶴岡の長山重行邸に着いたが、三山巡礼の疲れがこたえたらしく 13 日、川舟で酒田の港に下った。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。

FWA の HP 「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野 寅次郎 拝